



発明の名称:エストロゲン関連疾患の判定方法

利用・用途・応用分野

エストロゲン関連疾患の判定方法、疾患予防、治療薬剤の開発、子宮筋腫の治療薬

目的・課題

女性ホルモンの一種であるエストロゲン(E2)は多彩な生理作用を有しており、内分泌系、生殖器、骨組織、血管系で重要な役割を担っている。エストロゲン受容体の同定とその機能や制御メカニズムを明らかにすることは、疾患の治療・予防に極めて重要である。

解決ポイント

エストロゲン関連疾患患者のGPR30遺伝子のORFに存在するSNPを同定し、かかるSNPをもつGPR30が野生型GPR30のもつアポトーシス誘導機能を損なっていることを見いたしました。

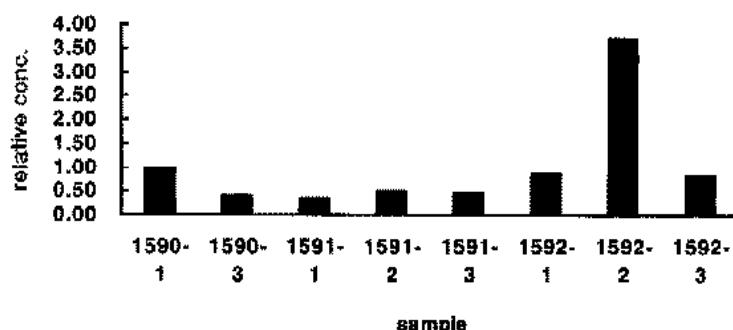
研究概要・アピールポイント

子宮筋腫等のエストロゲン関連疾患の検査のターゲットを追加し、創薬のターゲット及びスクリーニングの手法を提供できる。大量のサンプルを高速に検査することが可能になり、患者のGPR30における変異の有無を判定して予防や治療方針を検討するオーダーメイド治療が可能になる。

GPR30遺伝子プロモーター領域配列の下流にGFP遺伝子を有するDNAトランスジェニックマウスでのGPR30のmRNAの発現量をG3PDHをコントロールとして用い定量した結果図

TG マウス GPR30 mRNA 定量データ

sample	Ct (G3PDH)	Ct (GPR30)	ΔCt	$-\Delta\Delta Ct$ (standard:01)	相対発現量
1590-1	15.08	25.1	10.01	0	1.00
1590-3	11.99	23.2	11.21	-1.2	0.44
1591-1	11.21	22.7	11.49	-1.48	0.36
1591-2	15.4	28.4	11	-0.99	0.50
1591-3	13.28	24.3	11.04	-1.03	0.49
1592-1	12.31	22.5	10.19	-0.18	0.88
1592-2	17.49	25.6	8.11	1.9	3.73
1592-3	11.65	21.9	10.25	-0.24	0.85



◆お問合せ先◆

有限会社山口ティー・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp